

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	芙蓉総合リース様貸店舗新築工事	BEE	0.5	BEEランク	B-	★★
------	-----------------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
循環型社会への貢献	2.8 /5		がんばろう:
地球温暖化対策の推進	2.0 /5		がんばろう:
豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう:
高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう:

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満
---	-------	----------------	-----------------	-------------------

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル:	CASBEE-建築(新築) 2014年版	使用CASBEE評価ソフト:	CASBEE-BD_NC_2014(v2.0)
------------------	----------------------	----------------	-------------------------

1 循環型社会への貢献 スコア平均 2.8

リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減 スコア 2.5	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 2.9
<自由記述>	<自由記述>

2 地球温暖化対策の推進 スコア平均 2.1

省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮 スコア 3.1	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア 1
<自由記述>ライフサイクルCO2排出量は一般的な建物と同等程度とした。	<自由記述>

3 豊かな自然環境の確保 スコア平均 1.3

生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 1
<自由記述>	<自由記述>

4 高齢社会への対応 スコア平均 3.0

バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画 スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 1 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: 0.96 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %
<自由記述>移動等円滑化基準に適合する建築計画とした。	

:入力欄

:CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	芙蓉総合リース様貸店舗新築工事	階数	地上2F
建設地	北九州市八幡西区光明1丁目1921-1	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年6月15日
敷地面積	3,147 m ²	作成者	榊原アソシエイツ
建築面積	2,079 m ²	確認日	2020年6月15日
延床面積	4,012 m ²	確認者	榊原アソシエイツ

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 省エネ対策などを施すことで地球環境負荷の低減を目指し、周辺環境にも配慮した。		
Q1 室内環境 外壁熱損失の低減を図るため、外壁断熱性能を考慮した。	Q2 サービス性能 階高、天井高にゆとりを持たせて快適性を確保し、バリアフリーとした。	Q3 室外環境(敷地内) 地域の町並み、景観への配慮を考慮した
LR1 エネルギー エネルギー損失の削減を考慮し、高効率機器を採用した。	LR2 資源・マテリアル 地球環境、人体への健康配慮した建築材料の選択を行った。	LR3 敷地外環境 周辺の渋滞緩和のために適切な駐車スペース数を確保した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE-建築(新築)2016年版
芙蓉総合リース賃貸店舗新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.4	
Q1 室内環境			0.40	-	-		2.6		
1 音環境		1.8	0.15	-	-		1.8		
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.40	3.0	-				
1.2 遮音	-	1.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	-	1.0	1.00	3.0	-				
2 界壁遮音性能	-	3.0	-	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音	-	1.0	0.20	3.0	-				
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-		3.0		
2.1 室温制御	-	3.0	0.50	-	-				
1 室温	-	3.0	0.50	3.0	-				
2 外皮性能	-	3.0	0.17	3.0	-				
3 ゾーン別制御性	-	3.0	0.33	-	-				
2.2 湿度制御	-	3.0	0.20	3.0	-				
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	3.0	-				
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-		3.0		
3.1 屋光利用	-	3.0	0.50	-	-				
1 屋光率	-	3.0	-	3.0	-				
2 方位別開口	-	-	-	3.0	-				
3 屋光利用設備	-	3.0	1.00	3.0	-				
3.2 グレア対策	-	-	-	-	-				
1 屋光制御	-	3.0	-	3.0	-				
3.3 照度	-	3.0	-	3.0	-				
3.4 照明制御	-	3.0	0.50	3.0	-				
4 空気質環境		2.5	0.25	-	-		2.5		
4.1 発生源対策	-	3.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	-	3.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気	-	2.0	0.30	-	-				
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	-				
2 自然換気性能	-	3.0	-	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮	-	1.0	0.50	3.0	-				
4.3 運用管理	-	2.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	-	1.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	-	3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		2.9		
1 機能性		3.1	0.40	-	-		3.1		
1.1 機能性・使いやすさ	-	3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性	-	3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応	-	3.0	-	3.0	-				
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性	-	3.3	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	売場の天井高4.0m	5.0	0.33	3.0	-				
2 リフレッシュスペース	-	2.0	0.33	-	-				
3 内装計画	-	3.0	0.33	1.0	-				
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.7	0.30	-	-		2.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性	-	1.8	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	-	1.0	0.20	-	-				
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	-	1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	-	1.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			2.9	0.30	-	-	2.9
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	-		3.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	外周長さ197.8m ÷ 二階面積1968.92		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		1.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.0	0.20	-	-	2.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			2.2	0.50	-	-	2.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減	-		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	発泡剤不使用。グラスウール断熱材のみを使用		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.6
1 地球温暖化への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器無し		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	0.33	-	-	
2 振動	-		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭	-		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	